

防災部長 資料

(町内会ごとに、毎年、引き継ぎしてください)

本能学区 防災まちづくり 計画

便利で快適な暮らしのもとで

住民みんなが支え合い

安心して暮らせる災害に強い本能

令和4年3月

本能自治連合会 本能学区自主防災会 本能消防分団

本能学区防災まちづくり計画の策定に当たって

本能自主防災会 会長 倉部邦夫

直近の 1830 年の京都大地震以前にも、1596 年の伏見城が倒壊した慶長伏見地震等々、平安時代からの多くの地震の記録が残っており、遠くない将来に必ず京都でも大地震が発生すると言われております。

自主防災会では、令和元年度より今年度まで、京都市・専門家の助言、協力の下、防災訓練が実施できない等の制約の有るなかで、可能な範囲で活動を行って来ました。

そこで、この 3 年間の区切りの一つとして「防災まちづくり計画」をまとめました。

発災直後は混乱のなか、いやも応もなく自分たちで対処せざるを得なくなります。その時のためにも日頃から助け合える関係を築いておき、そしてまた手助けを必要とする人のことも知っておきたいものです。

避難所に移動せざるを得ない状況になった場合、「避難所には客はいない」ということをご理解いただき、避難所がストレスのない場になりますようにご協力をお願いします。

一方、倒壊の危険のないマンション居住の方はマンションにとどまり、食料等の必要数をそれぞれの代表者が避難所本部お知らせ下さい。

今回の計画は最終的なものではなく、学区の皆様のご意見を参考により良いものにしていきたいと考えておりますので、今後ともよろしく願いいたします。

本能学区防災まちづくり計画の策定に当たって

本能自治連合会 会長 仁科繁一

阪神淡路大震災や東北における大震災以降、日本における防災意識は非常に高まるようになってきました。京都市においても、様々な防災対策が取られるようになっていきます。

その中で共同体の最小単位でもある本能学区の防災訓練が毎年行われていますが、今でも区民の方々にあまり知られていないのが、災害時には一度、「地域の集合場所」に集まり、ケガ人や助けが必要な方がいないかを確認してから本能館の避難所に来て頂くという一連の流れです。

また避難所には、各々のお方にお役にたつ物がそろっていませんので、自分の物は自分で用意して持って来て頂くことも承知しておいて欲しいと思います。実際に起こってからでは遅いので、日頃から最低限のことはご家族等と話し合っておく必要があると思います。

今般、南海沖地震がいつ起きてもおかしくないと言われていいますので、最小限の持ち出し物や食料品、水などを備えておかれることをお勧め致します。

本能学区防災まちづくり計画の策定に当たって

本能民生児童委員会 会長 神谷広美

35年前に本能学区に住み始めた頃、住宅の密集度や路地の多さに面食らったのを覚えています。「災害」と呼べるか分からないですが、大きな地震に2回、大型台風の被害に何回か遭い、「何かしら対策をしたほうがいいのか？」と、今回参加しました。

「防災」という観点で学区内を歩いてみると、防災バケツ、路地裏、空き家、道の幅など、危険なポイントがいっぱいあることに気づかされました。

これまで災害が少ないとされてきた地域でも、被害が増えている今。防災に対する意識が高まるだけでなく、地域のつながりにも改めて注目が集まっています。防災を入り口として住民同士のつながりを強めることは、防災に限らず、地域のもつ力を高めることになると感じています。

私たち一人ひとりが学区の防災について考えるだけでも、「防災まちづくり計画」に意味があると思います。防災について考える人が少しずつ増え、地域の防災力も高めていけたらと思います。

目 次

第1章	取組の背景・目的	・・・1
	(1) 背景と目的	
	(2) 計画の役割	
	(3) これまでの取組	
第2章	現状と課題	・・・11
	(1) 現状	
	(2) 人口等の現状	
	(3) 防災上の課題	
第3章	防災まちづくりの目標	・・・16
	(1) 目指すまちの将来像	
	(2) 目指すまちの将来像を実現するための目標	
	(3) 方針と具体的な取組のアイデア	
第4章	防災まちづくりの進め方	・・・23
	(1) 主体ごとの役割	
	(2) 「一人ひとり」の役割	
	(3) 「町内会」の役割	
	(4) 取組スケジュール	



第1章 取組の背景・目的

(1) 背景と目的

本能学区は、四条烏丸の西側に位置し、四条通、堀川通の広域的な幹線道路が通過し、交通利便性に恵まれています。また、四条通や堀川通などの幹線道路の沿道を中心にマンションやホテルなどの大規模な建物が見られるようになってきていますが、学区内には古くからの京町家や路地が残るなど、風情ある京都らしい町並みを有しています。

その一方で、地震などの災害時には建物倒壊や火災の発生・燃え広がりなどの被害が予想されるとともに、高齢者などへの配慮も必要になっています。特に、子どもや高齢者などの災害時要配慮者と言われる方は、災害時や災害後の生活において困りごとを抱えたまま孤立することがあると言われています。

こうしたことから、本能学区では、災害に強い、誰もが安心・安全に住み続けられるまちを目指し、令和元年度から「防災まちづくり」に取り組み、住民のみなさんとまちあるきや、防災まちづくりに関する話し合いを重ねてきました。

「防災まちづくり計画」は、災害の被害から人命や財産を守り、将来にわたって安心・安全に住み続けることができるよう、学区が継続して「防災まちづくり」に取り組んでいくための考え方や具体的な取組等を取りまとめたものです。

(2) 計画の役割

「防災まちづくり計画」の役割は、以下のとおりです。

① 実現すべき目指すまちの将来像を明らかにする役割

今後の「防災まちづくり」の取組に向けて、誰にとっても分かりやすい表現で、実現すべき目指すまちの将来像や「防災まちづくり」の目標や方針、具体的な「防災まちづくり」対策等を明らかにします。

② 具体的な「防災まちづくり」対策を進める指針とする役割

地域で把握・共有した防災上の課題解決に向けて、地域の特性を踏まえた具体的な「防災まちづくり」対策を進めていく際の指針とします。

③ 住民や事業者の理解、合意形成を図る役割

目指すまちの将来像や「防災まちづくり」の目標や方針を、住民、事業者、行政が共通の目標として共有することにより、「防災まちづくり」に対する理解を深め、「防災まちづくり」の取組全般に対する合意形成や相互の調整を容易にします。

(3) これまでの取組

- ・防災まちづくりの取組に先立ち、本能学区では、平成14年8月に本能学区の今後のまちづくりを進めていく方針として、地区計画が都市計画決定されています。

◇地区計画の目標

本能学区は、本能寺跡をはじめ、数多くの歴史的・文化的な資産を有する地区である。また、昔から今日に至るまで京染に関わる職人が多く住む地域であり、職のつながりを基礎にした住民間の交流が豊かで、活発な地域コミュニティが形成され、職と住が共存する市街地を形成している。

本能学区では、「住みたいまち、育てたいまち、働きたいまち、本能」の実現を目指したまちづくりを進めており、今後ともこのまちづくりの進展を図る。このため、職と住が共存し、地域の資源である「染め」の文化・技術を現代の魅力として活かしながら、住民間のおつきあいを大切にした交流豊かなまちの形成を図り、子どもから高齢者まで多世代が暮らしやすい開かれた地域社会の実現を目指すことを、将来にわたる地区計画の目標として定める。

◇土地利用の方針

- ①職住共存地区（堀川通沿道地区、三条通沿道地区以外の区域）：商工の賑わいの継承と、地域でのコミュニケーションが豊かな住環境の維持・発展により、まちなみに配慮した都心活力の源となる職住共存の多様な土地利用を誘導する。
- ②三条通沿道地区：三条通の魅力と賑わいを継承し、人々が交流できる空間の形成を図るため、沿道建築物の低層階には店舗の導入を促進する。
- ③堀川通沿道地区：職住共存地区の住環境に配慮しながら、都心にふさわしい都市機能の集積を図る。



▲本能学区のまちなみイメージ
(職住共存地区整備ガイドプランより抜粋)

■令和元年度の取組

▶ 防災まちあるき (R1.11.17)

- ・実際にまちを歩き、身近な町内の現状や防災上の課題を確認し、防災性を高める対策を考えました。



路地の幅を実際に測り、避難のしやすさをイメージしました！



町内の消火器や防火バケツなどを確認しました！



「地域の集合場所に安全に避難できるかどうか」を確認しました！

◆『防災まちあるき』の感想等

- ・普段気付かない様々なまちの魅力や、防災上の課題を見つけることができました。まちあるきをご一緒した方々と昔の状況を聞いたのも大変有意義でした。
- ・まちあるきをして、地域の安全な所、危ない所の再認識ができて良かった。
- ・切り口は防災ながら、ご近所の状態が色々で面白いまちあるきでした。
- ・防災の意識を持ってまちを見て歩くと、普段気付かないことがたくさんあり、勉強になりました。
- ・自分の住んでいる町内等をじっくり見せていただき、路地が多かったり、空き家があったりと、いつも自転車で走ってしまいましたが、町内、学区を歩いてみるのも大切なことだと思いました。
- ・日頃意識せずにまちを歩いているのですが、防災の観点からまちを見てみると危険な所、改善した方が良い所があることがわかりました。やはり日頃から意識して生活していくことが大切だと感じます。
- ・普段歩いている時の視点と違った視点で歩けたこと、新しい体験でした。
- ・何気なく通っていると気付かないことをたくさん発見することができました。
- ・普段、キョロキョロうろろうろしていたら怪しまれるが、時間をかけてゆっくり歩くことができ、かつ複数の目で確認できたので良かった。
- ・今まで、路地裏を見学したことがなく、良い見学となり、防災の方ももう少し考え住みやすいまちになってほしいです。
- ・普段入れない路地に入れて良かった。他町の方と情報を共有できた。
- ・初めて参加して路地等の見学、参考になりました。
- ・路地・空き家など知ることができて参考になりました。
- ・初めて袋路に入って、塀とかの突き当りを確認して良かったと思いました。
- ・改めてまちを歩くことで、危険な箇所が見えてきて参加して良かったです。地域のいたる所に防災バケツがあることは、自分の町にはなく素晴らしいと思いました。
- ・学区内に居住しながら、防災まちあるきの体験を通じて改めてつぶさに佇まいを見聞し、気付きを再認識しました。

▶ 総合防災訓練 (R2.1.19)

- ・「避難所運営ゲーム」を通して、避難所運営の大変さを体感し、災害が起こる前から地域で考えておくことを明らかにしました。



事前に考えておくべき避難所のルールについて話し合いました！



避難者が抱える事情を踏まえ、どこに誘導するかを考えました！



災害時の避難所の運営体制について考えました！

◆『避難所運営ゲーム』を体験された感想は？

- 5. どちらとも言えない
- 4. 良くなかった
0%
- 3. あまり良くなかった



「非常に良かった」と「良かった」の回答者が約99%

◆『避難所運営ゲーム』を体験された感想は？

- ・災害が起きてからリーダーを決めることは大変なので、トップから円滑に運営できるように組織を作っておくべき。
- ・運営のリーダーシップがとれる人をピックアップして、前もって複数人決めておく方が良い。
- ・個々の意識を常に高めなければならない。自分が何をできるかを考えるべき。
- ・本能の体育館の狭さを考慮した運営の仕方を検討すべき。
- ・子ども、年配の方、要介護者、要支援者、自治会に加入していない人、ホテル宿泊者の対応。
- ・体育館の通路に印をつけるなど、事前準備が必要。
- ・地区内の連絡網の強化。
- ・災害対策のマニュアルが必要。
- ・避難時の持ち物の準備。

■令和2年度の取組

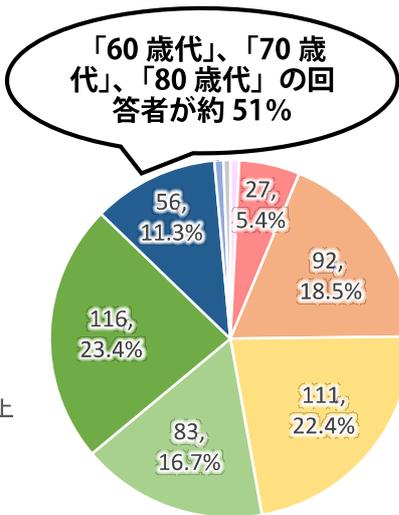
▶ 「防災まちづくり」に関するアンケート調査

・住民のみなさんの「防災」に関する考えや不安等を把握し、今後の具体的な取組に繋げることを目的として、「防災まちづくり」に関するアンケート調査を行いました。

1. あなたのこと、あなたのご自宅のこと

年齢

- 20歳代
- 30歳代
- 40歳代
- 50歳代
- 60歳代
- 70歳
- 80歳
- 90歳以上
- 無回答



世帯構成

- 単身世帯(1人)
- 夫婦世帯(2人)
- 2世帯(親と子)
- 3世帯(親と子と孫)
- その他
- 無回答



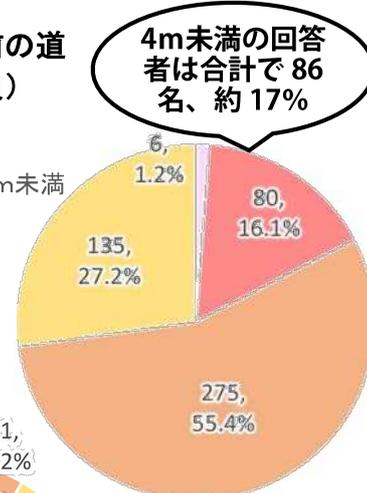
建築時期

- 昭和25年より古い
- 昭和25年～昭和55年の間
- 昭和56年以降
- 分からない
- 無回答



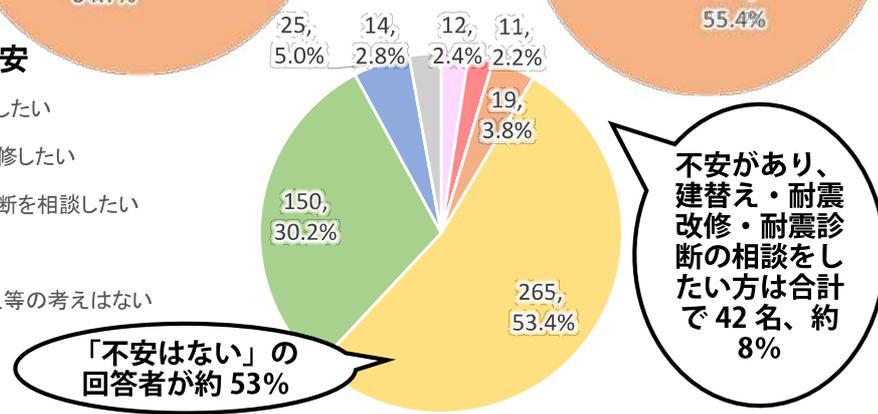
ご自宅の前の道(幅員)

- 1.8m未満
- 1.8以上～4m未満
- 4m以上
- 無回答



地震に対する不安

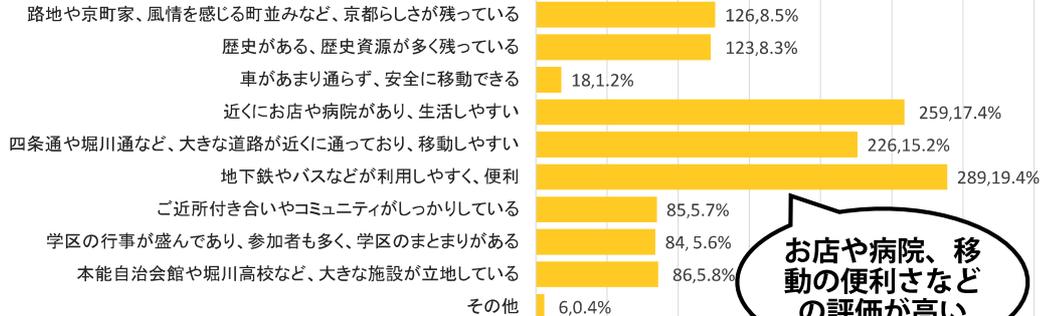
- 不安があり、建替えたい
- 不安があり、耐震改修したい
- 不安があり、耐震診断を相談したい
- 不安はない
- 不安はあるが建替え等の考えはない
- その他
- 無回答



不安があり、建替え・耐震改修・耐震診断の相談をしたい方は合計で42名、約8%

2. 本能学区について

本能学区の良いところ・大切にしたいところ



お店や病院、移動の便利さなどの評価が高い

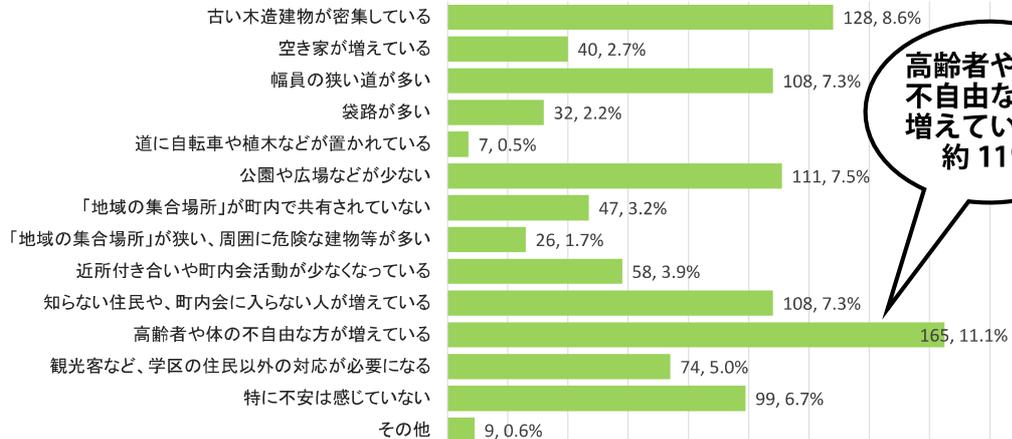
本能学区がどのようなまちになると良いか



事故や犯罪が少なく、安心して暮らせるまちが約25%

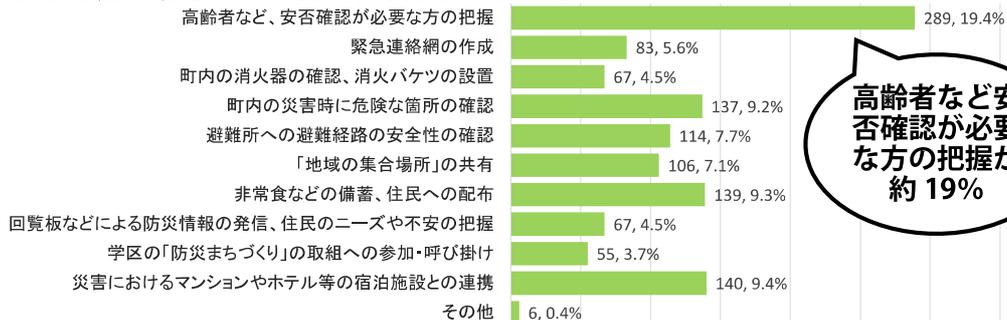
3. お住まいのご町内について

大きな地震が発生した際に不安なところ



高齢者や体の不自由な方が増えているが約11%

大きな地震に備えて町内会が取り組むべきこと

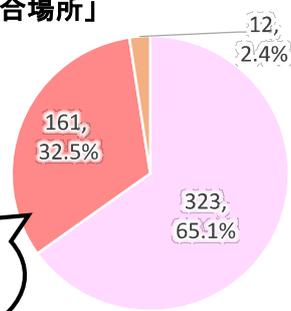


高齢者など安否確認が必要な方の把握が約19%

4. ご自身の防災の取組について

町内の「地域の集合場所」

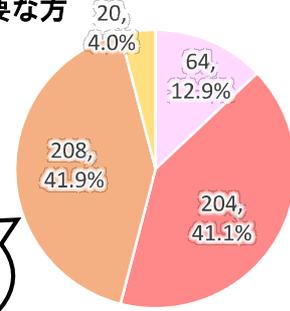
- 知っている
- 知らない
- 無回答



161名の方が「知らない」と回答

町内で安否確認が必要な方

- ほとんど知っている
- 少しは知っている
- 知らない
- 無回答

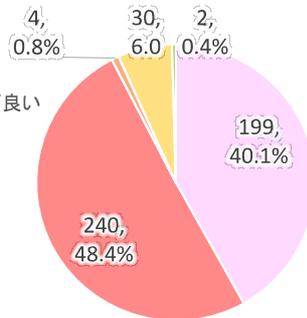


208名の方が「知らない」と回答

今後の「防災まちづくり」の取組

防災まちづくりの取組

- 積極的に取り組むべき
- できれば取り組んだほうが良い
- あまり取りくまなくても良い
- 取り組まなくても良い
- 分からない
- その他



約89%の方が取り組んだほうが良いと回答

「防災まちづくり」の主なアイデア

- ・コミュニケーションを取るため、町内単位での消防、警察を巻き込んだ訓練(緊急)を行って、全員参加を目指す。
- ・地域、学区の行事、祭事、イベント等の機会を増やし、顔なじみをつくる。
- ・子どもも参加できる取組があればと思います。
- ・町内ごとの避難計画。各町内会の行事にゲームなど防災の内容を取り入れてもらう。
- ・前回の避難所運営ゲームを再度実施すると良い。
- ・マンション住民が参加しやすい企画等を考えて、マンション住民を町内会に取り込む工夫をお願いします。
- ・人と人とのつながり。
- ・『向こう三軒両隣』の町内融和が必要。高齢者や体の不自由な人の把握。
- ・防災マップの配布。町内の避難場所のステッカーを再度配って欲しい。
- ・町内の防災まちづくりのため町内マップを作って自宅に置く。
- ・「地域の集合場所」は避難先に近く広い駐車場に見直した方がいい。
- ・マンションや町内の掲示板にハザードマップや「地域の集合場所」を掲示。
- ・「地域の集合場所」や緊急連絡先などを定期的に知らせる。
- ・町内会未加入者が災害時に置き去りにならないよう、防災と合わせて、自治会や町内会の根本的な見直しも必要。
- ・防災訓練は、定期的にやるべきだと思います。各町内単位での訓練が必要。

▶ 「防災まちづくりマップ」の製作・全戸配布

・「地域の集合場所」などを「防災まちづくりマップ」として取りまとめ、全戸配布しました。

凡例

- 避難経路が可能な道路
- 避難経路が不可能な道路(断路)
- 避難経路が可能な歩道
- 避難経路が不可能な歩道
- トンネル跡地
- 地域の集合場所 (地震発生時避難)
- 避難所 (堀川高等学校本館館・本郷自治会館)
- 公園
- 神社・お寺・公共施設等
- 駐車場・空き地等

『地域の集合場所』とは

『地域の集合場所』は、大きな地震が起こった時に町内会の住民が集まり、安否や被害状況を確認する場所です。住民みんなで場所を共有し、周りの安全を確認しておきましょう。
※地震が起こってから30分を目安に集まるようにしましょう。

地域の集合場所

- A 横車通りの集合場所
- B 塩屋町の集合場所
- C 三条池小堀町の集合場所
- D 清水町の集合場所
- E 橋浦町の集合場所
- F 越後町の集合場所
- G 本郷町の集合場所
- H 本郷町、寝々町の集合場所
- I 越後安楽町の集合場所
- J 池田町の集合場所
- K 池田町の集合場所
- L 池田町の集合場所

凡例

- 避難経路が可能な道路
- 避難経路が不可能な道路(断路)
- 避難経路が可能な歩道
- 避難経路が不可能な歩道
- トンネル跡地
- 地域の集合場所 (地震発生時避難)
- 避難所 (堀川高等学校本館館・本郷自治会館)
- 公園
- 神社・お寺・公共施設等
- 駐車場・空き地等

『地域の集合場所』とは

『地域の集合場所』は、大きな地震が起こった時に町内会の住民が集まり、安否や被害状況を確認する場所です。住民みんなで場所を共有し、周りの安全を確認しておきましょう。
※地震が起こってから30分を目安に集まるようにしましょう。

地域の集合場所

- A 堀川町の集合場所
- B 山田町、ロジマン京都八角通の集合場所
- C 三文字町の集合場所
- D 越後川町の集合場所
- E 藤西町の集合場所
- F 元本郷南町の集合場所
- G 古西町の集合場所
- H 空也町の集合場所
- I 藤本町の集合場所
- J 越後山町の集合場所

■令和3年度の取組

▶ 『防災部長研修』 (R3.11.8)

- ・災害時に町内会のリーダーとしての役割が期待される各町の防災部長を対象として、「本能学区防災まちづくり計画」の目標・方針と町内会の取組などについて検討を行いました。

災害に強いまちにする
ための本能学区の方針
を考えました！



◆ 『防災部長研修』の感想等

- ・自分が住んでいるところなのに知らないことが多かった。また、町により違う考えがあることがわかった。
- ・災害に対応することを改めて考えさせられました。
- ・問題点が多々あり、考えさせられた。
- ・色々な意見発表を開き、自分自身も知らない事も知ることができ、参加してよかったと思いました。
- ・各町内の違いや問題点がわかって、有意義であったと思います。消防団のこれからの取組にもいかしていきたいと思います。
- ・日々考えていかなければいけないことを改めて考えました。私たちの日々の生活のありがたさ、防災の大切さを思います。
- ・改めて防災の大事さを感じましたが、町内に伝えることができるのかと考えました。町内の消防団の人とも相談して、町内の集いの時に話ができたらと思います。
- ・様々な意見をいただき、勉強になりました。各個人の意識が重要です。その意識を持った人を育てることが最重要。
- ・防災について再確認できました。
- ・なかなか現実味がないので、どうも具体的に考えにくい、必ず起こるといわれている震災なので…。
- ・まだまだわからないことが色々ありました。
- ・このような機会を各町内の役員を対象にしてやっても良いのでは？
- ・防災研修会は大変良いことであると思いました。
- ・コロナ禍によって、なかなか機会がありませんが、このような研修の場は必要であると改めて感じました。
- ・初参加なので、わからないことも多かった。ただ内容については、考えさせられるところはたくさんありました。
- ・町内によって、課題の違いが見えてきました。
- ・マンション等の災害時に向けてのお金について少し考えさせられました。
- ・まわりの町内のみなさんの取組をじっくり教えていただくことができ興味深く感じました。ありがとうございました！是非うちの町内のカタチに活かしたいと思います！
- ・本能学区として復興を考えた場合、ファイナンス（お金）の話は大切だと思います。地震保険の普及を啓発することが街全体の復興。

